

座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

165号 2017.12.1.
 毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介



！震災前夜の畑で田植え（今はできない）
 岩倉政城講演会資料より

「子ども時代」を奪われた子どもたち

松井 英介

2017年11月25日夕刻五時五十五分ころ札幌市東区の路上で、中学一年生の男の子が、見ず知らずの若い女性を背後から包丁で刺しました。その男子生徒は「人が死んでいるところや、殺すことを想像していた」と警察で供述しているそうです。TVニュースでは、「その子の家庭に問題がある」とのコメントが流されたそうです。このニュースを聞いたとき、どのような感想をもたれましたか？

私は、息子の家族が札幌市に住んでいますし、中学三年の息子と小学四年の娘がいますので、格段に身近に感じました。そして「家庭に問題がある」という報道に大きな違和感をもちました。

私は小中学校時代を三重県の山村で過ごしました。学校までは片道6kmの山あいの土の道でした。学校から帰ると翌日に履く二足の藁草履を作るのが日課でした。一足を片道で履きつづすからです。学校への行き帰りも、山や川で遊びながらでしたが、それ以外の時間も、山や川、稲刈りのすんだ田んぼが遊びの場でした。と同時に、それは生き物との触れ合いの時間でした。採ってきたイワナや様々なキノコは食卓を豊かにしました。農繁期には学校は休みになり、田植えや麦ふみなど、子どもも働き手としてあてにされていました。テレビはありませんでした。スマホで仮想現実と遊ぶ時間もありませんでした。

先日ある番組が、デンマークのある幼稚園の日常を伝えました。子どもたちは、一日中森のなかで過ごし、さまざまな道具を使って土を掘り返し、虫や動物とふれあいながら、友だちとのつきあい方や、お互いの違いを学ぶのです。彼らは、小学校に入学するまで、文字や計算を教えられません。

駅前通りには両側に塾が並び、中高生だけでなく、小学生を、さらに最近では幼稚園児を、塾に送り迎えするのが父母や祖父母たちの日課になっている、そして、子どもたちが帰宅するのは夜遅く10時~11時という、どこかの国とは大違いです。

11月18日、「“大人”から自然を奪われた子どもたち—そして保育者は放射能汚染に立ち向った—」と題して、歯科医で前尚絅学院大学付属幼稚園長、新医協会長の岩倉政城さんは、新医協70周年を記念して講演しました。

岩倉さんが「自然剥奪症候群」という言葉で表現した東電福島第一原発大惨事の被害にあった子どもたちの置かれた状況は、さらに深刻なものだということを教えられました。

自然の中で人間らしく育つ「子ども時代」を、次世代から奪った私たち世代は、自らの歴史的社会的責任を深く自覚すべきだと思うのです。